





卒都波小町

治平三辰出取有之辰月ノ辰ノ辰

丁ニ 〇 丁ニ 〇 丁ニ 〇 左アシライヤア左ヨリ出ル

右ツケ右ノツケキヤテ ツマキ並ニツケ

大小向又 儀義ニ刻 刻 改オト云テ 是ハ 是ハ 是ハ 是ハ シトト 留テ

ヤ 〇 ハ ハ ハ ハ ハ シ 汎出ス

ヤ 他儀大毅ハ 刻 次オトシ 下 畷ノ 声ト云由

〇 ハ ハ ハ ハ ハ シ 汎出ス 予 振必ル

卒都婆小町

山ヨリクのあさヨリクまヨリクのヨリク深ヨリクも
心成ヨリクるヨリクをヨリク是ヨリクのヨリク高ヨリク野ヨリク山ヨリクよヨリクるヨリクそ

あヨリクるヨリク僧ヨリクあヨリクらヨリクくヨリクのヨリク我ヨリク汝ヨリク度ヨリク都ヨリクのヨリクあヨリクらヨリクくヨリク
まヨリクやヨリクとヨリク思ヨリクのヨリク作ヨリクまヨリク前ヨリク松ヨリクをヨリク既ヨリクまヨリクりヨリク
持ヨリク佛ヨリクのヨリクまヨリクまヨリクのヨリクあヨリクらヨリクびヨリク等ヨリクのヨリク中ヨリク國ヨリクのヨリク
生ヨリクれヨリクまヨリクしヨリクげヨリクをヨリク現ヨリクとヨリク思ヨリクふヨリクたヨリクまヨリクくヨリク

巻之二

故
梅若誠太郎氏
昭和四年正月
梅若重久氏
寄贈

麦マキ籾ホ三人ニ身ミをシらシまシるル身ミ邊ヘにニあリまシるルあまれ
仏ブツ教ケウのノあまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるル
程タビなリまシるル思オモひヒのノあまりニあリまシるルあまりニあリまシるル
才サイ成セイのノあまりニあリまシるル生ナれルぬル花ハのノあまりニあリまシるル
ままりニあリまシるル憐レむルままりニあリまシるルあまりニあリまシるル
あまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるル
あまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるル
あまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるル

山ヤマはハ向ムかへはハ是コぞゾままりニあリまシるルあまりニあリまシるル
あまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるル
あまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるル
あまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるル
あまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるル
あまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるル
あまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるル
あまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるル
あまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるル
あまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるルあまりニあリまシるル

ちかゆるもやうつやとら民同
 めもさくまきあまれ諸人の耻を
 婿のあめ月日身よりつて百年の
 婿と成るの都多人目つきや若
 もそれとうたまれ月法交よ
 ちくゆく雲井もちまわ大い山
 の山身もあつてふらふらもやう

こころわてよりあも身羽の意塚杖乃
 山月のうららの河津毎ぎゆく人の
 罪や覚くはるる程よ是

ちる朽木は腰をかきてはまりやと思ひ
 あもちも日乃暮るては道と悪のまら
 うやこれ成乞食の腰りきたるを
 正しく率教はまきくは教化してれまう

まはめていづに是成乞可人おまの
腰がきつるがうまきぬくも松籐色
性シヤウのそくふくあふかまこまぬま
てよのあまもさる人 佛ニテの多性
のうまきわきし宣入た是はほま
まもみくひまきさめる像カクチもあ唯ニク朽
本キと社シヤくたき 縦キヤ深ニ山の朽木カクチあ

まも死サキ候コト一ニまのれあニぶニわ
ゆよまきさめるまあてうまニれあ
へきニテ 神ニテも賜ニう埋ニまあれた心ニ花
のまあまニチ向ニまあてうなニらニあニん
扱カ糸ニ袴ニたニくニきニ謂ニあニるニまニ 支ニえニるニまニ
多ニ金ニ剛ニ蔭ニ堀ニぐりニまニ出ニ候ニして三ニ摩ニ耶ニ
形ニとニ行ニ日ニ給ニまニ 行ニひニまニさニるニ形ニまニいニるニ

シテハ
観音の慈悲 摩訶持の愚癡を 文
殊の智慧 あくといふも 善あり
煩惱といふも 菩提也 菩提
植木よあらん 明鏡又 曇よあ
實本す来一物あつ時ハ仏も成生を
隔あつえよりをち乃凡を救ふ
為れ方便のづから誓言の願あつて

縁ありと信ふしと懇よドをハ誠よ
ちと就る非人ありて僧の心を
地よつきく三度礼はくハ 我ハ此
時ちちをわたりたり事の時をよむ極
樂れちちあつてあつてあつて
竹の若くかきま 菩提の
乃きけりわく 不引 梅村といつ成

昔々
むつり
の
後

人さるるを世名集ニテ白々々
 名を名集上へ〜ごまは出羽乃郡司
 小野良実ヨシガサのじとめ小野小町トアあり
 一そめくトアふあやトア痛りトアやか
 小町トアありもいトアくお花の像
 のまき桂の眉墨あり〜白粉と
 絶さびの縁乃衣杉トア〜桂殿乃

同のゆり〜詩と續詩と
 作を醉トアをもも〜月
 袖静ありま〜ゆき
 片貝トア行トア〜名
 霜蓬トア〜嬋トア暗トアたり〜西筵
 もら〜ふ〜ゆき〜も〜み〜れ〜花
 あり〜雙蛾トア色トアを〜衣トア百

新
 六

たなまの浄僧あり浄僧 小町
かきとく通りあり浄僧 小町
伊とて現あり事とバド浄僧 小町
小町と云人のあまうよ色くうふてあ
あこれ玉章此方の又も浄僧 小町
五月雨のやうに一度れきも
あつと今百年あり浄僧 小町

人ありやあり人あり浄僧 小町
とい母にといめり成老乃つ浄僧 小町
て者そ 小町
中あり殊浄僧 小町
根あり浄僧 小町
通あり浄僧 小町
あ路あり浄僧 小町

そなたも 浄夜も 海も ひと
浄夜の 袴も ひと 浄夜も 海も ひと
かきまわりの 狩衣の 袖も ひと 浄夜も 海も ひと
人め 舟の 通路の 月も ひと 浄夜も 海も ひと
御も 舟の 舟も ひと 浄夜も 海も ひと
雨雲も ひと 浄夜も 海も ひと
空行で 海も ひと 浄夜も 海も ひと

二夜三夜 四夜七夜 や ようの よ 豊
乃 明の 節 會も 舟も ひと 浄夜も 海も ひと
庭も ひと 浄夜も 海も ひと
十九夜も ひと 浄夜も 海も ひと
目も ひと 浄夜も 海も ひと
一夜も ひと 浄夜も 海も ひと

三

十

三ツノ其ハ悉ク入リ念フうツきニ入リてハ松ノ根ノ末ノ梢ノをハ見ルよクきテ
まハおハわカねヲひクもトやハ見ルよクきテ
そハなノ世ヲねクまシまシとハ成スるヲ
所ヲ塔ノ下ノにシてハ黄金ノヲ入レてハ入リ
てハまカりノ花ヲをハ伝ヘまシ手ヲ向ツてハ成スるヲ
のハみらるハまカりノ花ヲをハ伝ヘまシ手ヲ向ツてハ成スるヲ



Handwritten marks and characters in the top left corner of the left page.



A small handwritten mark or character in the middle right area of the right page.

